

委員会報告 [教育研修委員会]



大木 いずみ JACR副理事長

埼玉県立大学

杉山 裕美	放射線影響研究所 疫学部	田中 里奈	弘前大学大学院 医学研究科		
伊藤 秀美	愛知県がんセンター	寺本 典弘	四国がんセンター		
金村 政輝	宮城県立がんセンター	海崎 泰治	福井県立病院	中林 愛恵	島根大学医学部附属病院
中田 佳世	大阪国際がんセンター	小塚 祐司	三重大学医学部附属病院	松本 吉史	大阪医科薬科大学附属病院

教育研修委員会は、がん登録の実務、登録ルール、データ利用など多種多様な専門分野を持ち、院内がん登録・全国がん登録などの現場で実際に活躍するエキスパートで構成されています。「JACRとしてがん登録実務者の教育・研修支援をするために何ができるかを考える」という立場で様々な提案やサポートを行います。

主な活動は、学術集会における実務者研修会の企画やサポート、総会時のがん登録実務功労者表彰です。今年度は新たに中林委員と松本委員を中心に実務者交流を目的にオンライン情報交換をJACR学術集会（東京大会）で行いました。

2016年のがん登録法（がん登録等の推進に関する法律）によって全国がん登録が開始され、2021年12月現在までに3年分の結果が報告されました。個人情報保護のもとで安全管理措置が徹底され、がん登録の完全性（悉皆性）と標準化（精度）が向上し、日本のがん罹患が正確に把握されるようになりました。登録の仕組みや方法は試行錯誤を繰り返しながら進みました。

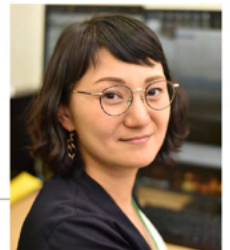
次の段階として、データの利活用の促進が焦点です。法律のもと、個人情報を適切に守りながら活用し社会に還元していくことが必要です。

がん登録法の施行から5年が経過し、政府統計としてe-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>)からも集計表をダウンロードできるようになり、身近なものになりました。一方でデータ利用については、全国がん登録及び院内がん登録における下記の課題が明らかになってきました。

1. 病院等への情報提供（生存確認情報）
2. 海外との共同研究
3. 研究への活用
4. 都道府県がん対策への活用
5. 継続的な精度維持・向上

学術委員会、広報委員会、国際委員会、Japan Cancer Information Partnership (J-CIP)活動とも連携しながらがん登録の向上の力になればと思います。

委員会報告 [国際交流委員会]



伊藤 ゆり JACR理事

大阪医科薬科大学

松坂 方士 弘前大学医学部附属病院 中田 佳世 大阪国際がんセンター

2021年10月12-14日に国際がん登録学会(IACR)のバーチャルミーティングがオンラインで開催されました。世界中の各地域からの参加の利便性を考えて、三日間、異なる時間帯に開催され、日本からも多くの方が参加しました。普段、海外に行くのが難しい方にも参加できる良い機会になったと思います。関連する学会として、国際疫学会も新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催となりました。いずれの学会も会期終了後もオンデマンドでコンテンツを見ることができましたので、オンライン開催ならではの良さもあったのではないのでしょうか。

今年もIACRバーチャルミーティングの最終日には若手研究者の奨励賞的な位置づけのEnrico Anglesio Awardの表彰式が開催されました。がん登録データを活用したハイレベルな研究成果の数々が発表されました。今回の表彰式のタイミングで、

Enrico Anglesio賞の同窓会組織(The Enrico Anglesio Prize Alumni Committee)の結成が公表されました。私も委員の一人として参加することになりました。これまでにEnrico Anglesio Awardにエントリーしたすべての研究者が対象となっており、がん登録の若手研究者のネットワーキングの場として設定されています。この組織では、研究助成などの取り組みも行っていくとのことでした。過去にエントリーされた先生方はもちろんですが、国際的な若手研究者同士の交流の場になりますので、これからエントリーを考えている対象の年齢の方も、ぜひサイトをご覧ください、参加を検討してください。

→ The Enrico Anglesio Prize Alumni Committee

<https://www.fondoelenamoroni.org/en/alumni/>

